

令和4年3月15日（火曜日）

予算決算委員会厚生分科会

議会会議室

出席議員

白井義一、谷川真由美、木村達夫、駒田かすみ、
八木隆次郎、石見和之、竹中隆一、杉本博昭、
江口千洋

【厚生委員会（健康福祉局）の審査】

再開

11時05分

健康福祉局

11時05分

送付議案説明

- ・議案第1号 令和4年度姫路市一般会計予算
- ・議案第5号 令和4年度姫路市介護保険事業特別会計予算
- ・議案第13号 令和3年度姫路市一般会計予算補正予算（第12回）

質疑

11時22分

（質問）

放課後等デイサービス事業とタイムケア事業の違いについて説明してもらいたい。

（答弁）

放課後に児童を預かる点は同じであるが、放課後等デイサービス事業は訓練と療育を目的としており、タイムケア事業は学童保育のように保護者の負担軽減を図ることを目的としている。

（質問）

保健所大規模改修事業は、長寿命化のための大規模改修とのことであるが、具体的にはどのような改修を行うのか。

（答弁）

空調機器、エレベーター、駐車場設備等の改修を行う予定である。

（質問）

現在使用されていない地下のシャワールームはどうするのか。

（答弁）

以前は地下に健康増進施設があり、その利用者が使う予定で設置したと聞いているが、現在は使用していないため撤去をすることになると考えている。

（質問）

大階段のハトのふん害について、清掃が非常に大変だと聞くが、何か対策は考えていないのか。

（答弁）

大階段は建物のデザインの要素で、根本的な対策は難しいが、近年ふん害がひどくなっており、大規模改修の中で何らかの対策を検討したいと考えている。

（質問）

保健所の1階スペースは、トイレなどの配置も分かりにくいものとなっているが、何か考えていることがあれば、説明してもらいたい。

（答弁）

大規模改修の基本設計の中で検討していきたい。

（質問）

保健所には守衛が配置されているが、不在時に新型コロナウイルス感染症関連の電話がかかっても対応できないとの声があるかどうか。

（答弁）

守衛と設備点検の2人で宿直勤務を行っているが、新型コロナウイルス感染症関連の電話は、夜間が多いと聞いている。基本設計や詳細設計の中で、検討したいと考えている。

（要望）

いろいろと変えていくべきところもあると思うが、市民が使いやすいように改善してもらいたい。

（質問）

医療・介護ゾーンにおける特別養護老人ホーム等の整備事業者の選定に当たっては、家族・地域等との交流が図りやすい設計であることが評価されたようであるが、この交流とは具体的にどのようなものをイメージしているのか。

（答弁）

医療・介護ゾーンに整備する施設の周辺にある地域との交流のことである。

（質問）

どのような交流を考えているのか。

（答弁）

イベントや講習会のようなものをイメージしているが、具体的には整備事業者が考えていく計画となっている。

（質問）

地域の人が医療・介護ゾーンに足を運んで、イベント等に参加するというイメージなのか。

(答弁)

新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着けば、地域の人にイベントに参加してもらうことや、施設側から地域に出向くような交流もあると考えている。

(質問)

医療・介護ゾーン以外の事業所等との連携は考えているのか。

(答弁)

整備事業者も想定していると聞いている。

(質問)

事業者の整備計画がきちんと実行されるかが大切であるが、改めて市が重視する事項について説明してもらいたい。

(答弁)

通常は整備場所から選定することになるが、今回は場所が決定している中で提案を求めたものであり、地域との交流が重要であると考えている。

(質問)

介護職員等U J I ターン支援事業は継続しているのか。

(答弁)

継続している。

(質問)

以前、当該事業について質問した際には、アンケートの実施による現状分析が必要であるとの答弁であった。その結果について説明してもらいたい。

(答弁)

介護職員養成のための研修助成事業において、初任者研修の範囲を広げてほしいとの声があり、それについては対応している。

U J I ターンについては、特にそのような声はなく、新型コロナウイルス感染症の影響により十分な実績を上げられていない状況である。

(質問)

介護人材の確保は喫緊の課題だと考える。何か有効な手段があればと思うがどうか。

(答弁)

U J I ターンは、令和2年度に新設した事業であり、

制度の周知が十分ではなかったのではないかと考えている。しっかりと周知を図っていきたい。

(質問)

老人福祉施設等感染拡大防止支援事業費について、昨年度からの事業であるが、内容に変更はないのか。

(答弁)

内容に変更はない。新型コロナウイルス感染症の第6波の影響による支援が必要であり、その費用を増額補正している。

(要望)

当該事業の存在を知らない事業所もあるようなので、しっかりと周知してもらいたい。

(質問)

すこやかひろばで雨漏りが発生していたと思うが、対応はどのようになっているのか。

(答弁)

数年後に大規模改修を控えており、そこで対応することになる。

(質問)

不妊治療について、どれぐらいの効果が見込まれているのか、何か把握していることがあれば説明してもらいたい。

(答弁)

基本的に年齢が高くなれば、妊よう率がかなり落ちるため、不妊治療費の助成にも年齢制限が設けられている。過去、姫路市でも独自に確認して周知した経緯がある。

なお、現在は治療を行っても妊娠や出産に至らない人のフォロー体制ができていないため、(仮称)母子健康支援センターの中で何らかの体制を構築できればと考えている。

(質問)

いきいき百歳体操参加ポイントについて、参加者の何割ぐらいがスマートフォンを持ち、ポイント申請ができる状態であるのか。

また、高齢者の場合、スマートフォンが使えず、マイナンバーカードも必要ではないという人も多いと思う。マイナンバーカードの普及率を上げる目的があつて、このようなポイント制度を開始するのだと思うが、例えば、高齢者等へのスマートフォン講座と合わせて開催することは考えていないのか。

(答弁)

平成30年版情報通信白書における高齢者のスマートフォン所有率が60代44.6%、70代18.8%、80代6.1%であり、本市のマイナンバーカードの所有率が約50%なので、これらを考慮した数を見込んでいる。

また、市民局で令和4年度に予定している高齢者向けのスマートフォン講座等と連携していきたいと考えている。

(質問)

制度の周知が進み、参加者の多くがポイント申請をした場合、予算が不足する可能性を想定しているのか。

(答弁)

令和4年度は408万円の予算を計上しているが、利用状況を見ながら検討していきたい。

(要望)

直近では、高齢者のスマートフォン所有率が70代でも6割以上という数字もある。予算の不足がうれしい悲鳴となるように頑張ってもらいたい。

(質問)

HPVワクチンのキャッチアップ接種について、この世代は当該ワクチンに対する恐怖心が植え付けられているのではないと思う。

それに対するフォロー体制や啓発体制はどのように考えているのか。

(答弁)

当初、中学生を対象とした思春期出前授業の中で、ワクチンの必要性等について説明し、十分に理解してもらい接種してもらうような体制で事業を進めてきた。

しかしながら、積極的勧奨が中止となり相当の時間が経過しているので、接種券は改めて送付することになるが、当該ワクチンは初回の性交渉までの接種が推奨されており、悩ましい問題と感じている。

希望者がスムーズに接種できる体制をつくり、接種券と併せて分かりやすい説明資料を送付するような形がよいのではないかと考えている。

(質問)

母子保健オンライン相談について、思春期世代に対してどのようにオンライン相談を啓発していくのか。

(答弁)

事前予約により、保健所や(仮称)母子健康支援セ

ンターに来てもらわなくても直接顔を見ながら相談ができるような体制を検討しているが、利用者の意見も聞きながら、よいものにしたいと考えている。

(質問)

新型コロナウイルスワクチン接種事業費について、ワクチンの接種期間が延長されたことに伴って、初回接種(1・2回目接種)の接種率向上が見込まれるとのことである。

接種券送付が昨年の夏頃であり、既に紛失している人が多いのではないと思うが、それらの人への対応について説明してもらいたい。

(答弁)

国産ワクチンの供給が転機となり、今まで接種をしていない人にも接種が進むのではないかと考えている。しっかりと体制を整えていく必要があると考えている。

(要望)

接種券を紛失した人に対する相談体制もしっかりと整えてもらいたい。

(質問)

老人福祉施設建設等助成について、どの財源を充てようとしているのか。

(答弁)

特養等の老人福祉施設の特定財源に充てるものとして、県補助金の地域介護拠点整備事業費補助金がある。加えて特定財源として、市債を充てている。

(質問)

特養プライバシー改修とはどのような改修を行うのか。

(答弁)

施設の多床室のプライバシーを確保するための改修である。

(要望)

視覚障害者スマートフォン活用支援事業は大変よい事業であるが、技術革新により手話を文字に変換するものやAIを活用し言語を文字に変換するものなど、聴覚障害者においても以前よりコミュニケーションが取りやすい環境が整いつつあるので、しっかりと支援事業の研究を進めてもらいたい。

(質問)

令和4年度に新たに整備する電子図書館であるが、

図書館と連携し、視覚障害の人に対しても周知をしてもらいたいどうか。

(答弁)

電子書籍は読み上げ機能もあると聞いており、その活用の方法等について検討協議していきたい。

(要望)

視覚障害者に対して、協力してしっかり広報周知を進めてもらいたい。

(質問)

保健所大規模改修事業について、本市はカーボンニュートラルの取組を進めており、環境局と連携し、ぜひその観点からの改修を図ってもらいたい、太陽光パネルを設置するなど国の補助メニューを活用する考えはあるのか。

(答弁)

環境局との協議では、一定の電気使用量のある建物の照明はLEDに切り替えていくとのことであり、それに沿うものになると思う。

新たに設計する建物はZEB、ゼロエネルギーの基準に当たる建物にしていこうとする流れはあるものの、既存の建物の改修となるので、環境局が主になり、営繕課とも話し合い、その方針に沿って進めていくものと考えている。

(要望)

財政支出は増えると思うが、ゼロカーボンシティに向けてしっかりと取り組んでももらいたい。

(質問)

南西部後医療機関運営等助成事業として3億4,400万円が予算計上されているが、この金額の詳細を説明してもらいたい。

(答弁)

3億4,400万円のうち、3億円はふるさと融資による貸付けとなる。残りの4,400万円は、年によって変動するが、30年間で実質6億円程度の支援をしていくものである。

(質問)

製鉄記念広畑病院が5月に閉院し、新たな三栄会の病院開設が12月とのことである。周辺地域の住民や利用者は、できる限りその期間を短くしてもらいたいと考えていると思うが、もう少し早く開設することはできないのか。

(答弁)

県・市・製鉄記念広畑病院・三栄会との協議では、4月30日の閉院後に売買契約を締結し、所有権移転後の6月頃に引渡し予定である。

その後の病床等の改修工事に若干時間を要するため、令和4年12月から令和5年3月までの間で開設となる予定であるが、三栄会からは網干のツカザキ病院の病床を増床し、広畑と一体的な運営を行うことで、製鉄記念広畑病院の通院者が困らないような形での対応を行っていくと聞いている。

(要望)

いろいろ努力をしてもらっているが、できるだけ短い期間での開設ができるよう引き続きお願いしたい。

(質問)

予算書の報酬給与費の説明欄には一般職170人、会計年度任用職員29人と記載されているが、これは令和3年度から増員されているのか。

(答弁)

予算上の数字であるが、昨年度の一般職は157人であり13人増の経費は見込んでいる。これには保健所に事務従事する職員の報酬給与費も含んだものである。

(要望)

現在の感染状況は落ち着いているかと思うが、いつまでも応援職員を派遣するという形ではなく、必要な人員はしっかりと確保し、保健所の体制自体を強化してもらいたい。

退職者挨拶

健康福祉局終了

12時07分

【厚生委員会意見とりまとめ】

意見取りまとめ

12時13分

・分科会長報告について

分科会正副会長に一任することに決定。

閉会

12時14分